

令和6年(ワ)第3728号

「明日を生きるための若者気候訴訟」二酸化炭素排出削減請求事件 外

原 告 [REDACTED] 外
被 告 株式会社 J E R A 外9名

証 抱 説 明 書 (甲 B121~148)

2025(令和7)年12月20日

名古屋地方裁判所 民事6部合議A係 御中

原告ら訴訟代理人弁護士 原 田 彰 好

同 浅 岡 美 恵

同 小 島 寛 司 ほか

甲 B 号証	標 目	原本、 写しの 別	作成年 月 日	作成者	立証趣旨	備 考
121	高温や熱波が直接的に人間健康に及ぼす影響	写し	2024 年	東京大学 大学院 准教授 井原智彦	人体の熱調整機能の仕組み、気温上昇による同機能の障害、深部体温が上昇することに伴う熱中症リスク等	
122	平成26年度ヒートアイランド現象に対する適応策及び震災後におけるヒートアイランド対策検討調査業務報告書(抜粋)	写し	2024 年	一般社団 法人環境 情報科学 センター	同上	
123	熱ストレスの健康影響	写し	2009年 4月 27 日	本田靖、 高橋潔	熱ストレスに伴う熱中症、循環器不全及びこれらによる死亡リスクの上昇	
124	健康づくりのための睡眠ガイド2023(抜粋)	写し	2024年 2月	厚生労働 省健康づ くりのた めの睡眠 指針の改 訂に関す る検討会	睡眠障害に伴う健康障害は、肥満、高血圧、糖尿病、心疾患、脳血管障害等多岐にわたること及び精神障害の発症リスクもあること等	

125	長期的な暑熱適応の効果を見込んでも気候変動と超高齢社会により21世紀半ばに向けて熱中症死亡者数が増加する	写し	2025年 11月 17日	国立環境研究所	熱中症による死亡リスクはいずれの地球温暖化シナリオのもとでも増加することが予測されていること、21世紀半ば・21世紀末における死亡率/死亡者数の増加率の葬祭	
126 -1	A Nationwide Comparative Analysis of Temperature-Related Mortality and Morbidity in Japan	写し	2023年 12月 7日	Lei Yuan ほか	熱中症を含む気温上昇に関連する死者数の合計は熱中症による死亡者数の約7倍にのぼること（2015年から2019年）等	
126 -2	日本における気温関連の死亡率と罹患率の全国比較分析	写し	同上	同上	上記訳文	
127	気候変動がもたらす未来の死者数、季節性の変化に迫る共同研究	写し	2024年 2月 7日	東京大学 、長崎大学	2000年代から2090年代にかけて、温暖な季節における熱関連死リスクが上昇することが予測されていること等	
128 -1	Impact of the urban heat island on heat-related mortality in the Tokyo Metropolitan Area, Japan	写し	2024年 12月 16日	Jinyu He ほか	都市部においてはヒートアイランド現象の影響が相まって熱関連死亡率が高まること、過去10年間の都市部における暑熱関連の超過死亡率の30%がヒートアイランド現象の影響を受けていること等	
128 -2	東京圏における都市熱環境が熱中症死亡に及ぼす影響	写し	同上	同上	上記訳文	
129	暑熱関連死亡リスクにおける湿度の影響の地域差 一日日本では蒸し暑さが死亡リスクに大きな影響を与える傾向があるー	写し	2024年 8月 20日	東京大学 大学院医学系研究科 橋爪 真弘 教授 ほか	太平洋高気圧等の影響で湿度の高い日本などでは、湿度の影響も相まって死亡リスクが高まること等	
130 -1	愛知県の気候変化	写し	2025年 12月 12日 (閲覧)	気象庁	愛知県名古屋市の年間熱帯夜日数の変化等	

130 -2	東北地方のこれまでの気候の変化	写し	同上	仙台管区 気象台	秋田、福島の年間熱帯夜日数の変化等	
130 -3	大都市における熱帯夜日数の長期的变化	写し	同上	気象庁	札幌、東京、名古屋、大阪、京都、広島、福岡の年間熱帯夜日数の変化等	
131 -1	The effects of night-time warming on mortality burden under future climate change scenarios: a modelling study	写し	2022年 8月	Cheng H eほか	熱帯夜は死亡リスクの顕著な上昇と関連しており、熱帯夜における相対的死亡リスクはそうでない夜と比較して50%高くなる可能性があること等	
131 -2	将来の気候変動シナリオ下における夜間温暖化が死亡負担に及ぼす影響：モデリング研究	写し	同上	同上	上記訳文	
132 -1	Mortality Risk of Hot Nights: A Nationwide Population-Based Retrospective Study in Japan	写し	2023年 5月	Satbyul EstellaKi mほか	1973年から2015年の43年間において日本全国で熱帯夜の全死亡率が9%から10%増加していること、11の死因の分類について熱帯夜との関連性が明らかにされたこと等	
132 -2	暑い夜の死亡リスク：日本における全国人口ベースの遡及的研究	写し	同上	同上	上記訳文	
133	熱帯夜による睡眠障害の被害は熱中症に匹敵することが判明	写し	2022年 9月27 日	東京大学 、岡山大学、関西福祉科学大学	熱帯夜による睡眠障害の被害は熱中症による死亡ロスにも匹敵すること及びその評価手法等	
134	気候変動により深刻化する健康被害	写し	2025年 12月 12日 (閲 覧)	国立環境 研究所	気候変動に伴う感染症リスクの増加及びその具体的な内容（食中毒や Dengue熱）	
135	地球温暖化と感染症	写し	2007年 3月	環境省	地球温暖化に伴う感染症リスクの増大等は遅くとも2007年には明らかにされていたこと等	

136	都市における屋外気温変化が多種の疾患に与える影響の総合評価	写し	2019年2月	鳴海大展 ほか	ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜炎、腸管出血性大腸炎感染症などの感染症との関係でも、気温上昇と感染症罹患について正の相関関係が存すること等	
137 -1	Association between heat exposure and Kawasaki disease: A time-stratified case-crossover study	写し	2025年1月	那波伸敏 ほか	平均気温が高いほど15歳未満の子どもにおける川崎病の入院リスクが高まること等	
137 -2	熱曝露と川崎病との関連性：時間層別化 ケース・クロスオーバー研究	写し	同上	同上	上記訳文	
138 -1	Association Between Heat Exposure and Anaphylaxis in Japan: A Time-Stratified Case-Crossover Study	写し	2024年12月	那波伸敏 ほか	日平均気温が高いほどアナフィラキシー（アレルギー）による入院リスクが高まること	
138 -2	日本における熱暴露とアナフィラキシーの関連性：時間層別化ケースクロスオーバー研究	写し	同上	同上	上記訳文	
139 -1	Association between heat exposure and intussusception in children in Japan from 2011 to 2022	写し	2025年2月	那波伸敏 ほか	日平均気温が高いほど小児の腸重積症による入院リスクが高まること	
139 -2	2011年から2022年までの日本における熱曝露と小児の腸重積症との関連性	写し	同上	同上	上記訳文	
140 -1	Climate anxiety in children and young people and their beliefs about government responses to climate change: a global survey	写し	2021年12月頃	キャロライン・ヒックマン 他	2021年に英国バース大学の研究者が主導し、英国、米国など10か国の児童・若者10,000名（各国1,000名）を対象に実施された調査の結果。回答者の50%以上が、気候変動に対し、悲しみ、不安、怒り、無力感、無力さ、罪悪感と	

					いう感情を報告し、回答者の45%以上が、気候変動に対する感情が日常生活や機能に悪影響を及ぼしていると述べ、多くの回答者が気候変動に関する否定的な思考を多く抱えていると報告した（例：75%が「未来は恐ろしいと思う」、83%が「人類は地球を守れなかつたと思う」）こと等	
140 -2	子供や若者における気候不安と、気候変動に対する政府の対応に関する彼らの考え：世界的な調査	写し	同上	同上	上記訳文	
141 -1	International Public Opinion on Climate Change	写し	2021年4月頃	アンソニー・ライゼロウイツツ他	世界30以上の国と地域のFacebookユーザーを対象に、気候変動に関する一般の知識、態度、政策の選好、行動を調査したところ、調査対象となったすべての国と地域で、回答者の過半数が気候変動について「非常に」または「やや」懸念していると回答し、メキシコ（94%）、コスタリカ（92%）、コロンビア（91%）、そして、日本（90%）において、10人中9人以上が懸念を示したなどの調査結果が示されていること。	
141 -2	気候変動に関する国際世論	写し	同上	同上	上記訳文	
142 -1	The relationship between climate change and mental health: a systematic review of the association between eco-anxiety, psychological distress, and symptoms of major affective disorders	写し	2024年	スザン・M・コッシュュ他	EBSCO、ProQuest、Web of Scienceデータベースを2024年2月分まで検索し、成人対象でエコ不安（曝露、すなわち気候変動に関連する恐怖、心配、不安）と、検証済み尺度で評価された心理的苦痛の症状および主要情動障害（アウトカム）を定量化した研究を抽出した。同レビューでは、英語文献で、査読付き論文に限定して検討がされ、同レビューにおいては初期検索では4368件の論文が抽出され、重複を除去	

					後2865件が残り、タイトルと抄録のスクリーニング後、全文レビュー対象として83件が残り、このうち34件が採用されたとされているところ、このような大規模かつ系統的なレビューを行った結論として、同論文は「一貫して、エコ不安は心理的苦痛、抑うつ症状、不安症状、ストレス症状といった精神健康アウトカムと小～大の正の相関を示した。」としていること、気候変動と各精神疾患について有意な関連が認められていること 等	
142 -2	気候変動とメンタルヘルスの関係：エコ不安、心理的苦痛、および主要感情障害の症状との関連性に関する系統的レビュー	写し	同上	同上	上記訳文	
143	地球温暖化、自然災害がメンタルヘルスに与える影響の実証分析	写し	2023年6月	宮崎浩伸	最高気温の上昇や自然災害による被害が、うつ病患者率の増加に有意に影響を及ぼしていること等	
144	Emissions Gap Report 2025	写し	2025年11月4日	国連環境計画（UNEP）	現在、各国の温室効果ガス削減目標を足し合わせても、産業革命前と比較して世界平均気温は2.8°Cの上昇が見込まれること。	
144 の2	抄訳	写し	2025年12月15日	原告ら訴訟代理人	同上。 ※エグゼクティブサマリーの本文のみを日本語に翻訳したもの（図表を含まない）。	
145	WMO Global Annual to Decadal Climate Update 2025-2029	写し	2025年5月28日	世界気象機関（WMO）	世界平均気温はすでに1.1°C上昇しており、2025年から2029年までの5年間の世界平均気温が1850年から1900年の平均値と比べ1.5°C上回る可能性が高いこと。	
145 の2	抄訳	写し	2025年12月15日	原告ら訴訟代理人	同上。 ※本文のみを日本語に翻訳したもの（図表は含まない）。	

146	気候変動影響評価報告書 総説	写し	2020年12月	環境省	2020年当時は、20世紀末（1980～1999年平均）と比べ、21世紀末（2076～2095年平均）では、東日本から西日本における猛暑日、熱帯夜の各年間日数について、1.5℃目標と整合する低位安定化シナリオでは、猛暑日の増加が年間5日未満、熱帯夜の増加が年間10～20日程度、高位参照シナリオであっても猛暑日の増加が20～30日程度、熱帯夜の増加が年間40～60日程度と予想されていたこと。	
147	IPCC 第6次評価報告書(AR6) 第二作業部会(WG2) 報告書 政策決定者向け要約	写し	2022.2.28	IPCC（環境省訳）	IPCCが2022年2月に公表した第6次評価報告書第2作業部会報告書の内容。 人間の影響が大気、海洋、及び陸域を温暖化させてきたことが疑う余地がないとされてきたこと、熱波、大雨、干ばつ、熱帯低気圧の強度増加が人間活動に起因する気候変動に帰属すること、気候変動がメンタルヘルスに悪影響を及ぼすことは「確信度が高い」と評価されていること等。	
148	2025年12月16日付け毎日新聞掲載記事「気候訴訟は「最後のとりで」」	写し	2025年12月16日	毎日新聞	元米裁判官、マイケル・ウィルソン氏のインタビュー記事の内容	

以上